

BIC

BUSINESS
INFORMATION
CENTER
AKITA

12

VOL.425
2016 Dec



MANAGEMENT REPORT

[巻頭] 経営探訪

未来の
秋田のために
できることを

株式会社
イヤタカ

04 センター活用事例 [case1]

起業&人脈づくり
を応援！
今年も“ビジコン”開催

あきたビジネスプラン
コンテスト2016

05 センター活用事例 [case2]

「薬膳」とは何か、
魅力やおいしさを
広める

～食堂 Café～
YAKUZEN

06 経営さぶりメント

写真でもっと伝わる、
もっとよくなる

『写真のチカラ』で
素晴らしい価値が伝わる

R-room 鈴木竜典写真室
鈴木 竜典

08 プラザ通信

平成28年度 第2回
企業応援・
農商工ファンド
公募結果について

ほか

かつて犬養毅や石坂洋次郎、棟方志功といった著名人にも愛用された旧平源旅館を改装したウェディングスペース「ゲストハウス平源」。白壁の蔵は、チャペルとして活用している。

未来の秋田のために できることを

秋田県内のウェディングシーンをリードし続けるイヤタカグループ。ウェディングから派生して、飲食店経営、ケータリング・仕出し業、貸衣裳やカルチャースクール、結婚相談所など、幅広い事業を手掛けている。大野恒平専務は、北嶋正社長の後継者として東京から秋田に移住。平成25年から現職を務めている。

創業から43年

かつてないサービスを次々創出

イヤタカは昭和49年、母体である彌高神社(秋田市千秋公園)の結婚式場から独立して「彌高会館」として創業。平成2年に商号を「株式会社イヤタカ」に変更し、今に至る。「サービス創造企業」を目指し、サービスの創出とお客様の満足、仕事のやりがいを追求し続けてきた北嶋社長。ここ20年は、主軸を置くウェディング事業において、レストランウェディングやゲストハウスウェディングの提案、伝統的建造物の活用など、「一歩先をゆく切り口」を発信し続け、ウェディング業界のみならず秋田の経済を盛り上げてきた。

また、レストラン経営、ゲストハウスの建設、横手市に残る国の有形登録文化財・旧平源旅館を改装したウェディングスペースのオープンなど、攻めの姿勢を貫いてき

た。「ないところを一から創り続けてきた20年だった」と尊敬の念を込めて語るのは大野専務。今やイヤタカはパート・アルバイトを含め従業員数350人の規模となり、グループ全体ではさらに大きな雇用を抱える。

サービスの追求を目指す

ウェブでの情報検索が当たり前の今、着任後はいち早く自社ホームページのリニューアルを実施し、迅速な情報発信とイメージ戦略を強化しながら、お客様の反応をデータとして蓄積・分析し、戦略的な営業展開を推進してきた。

また、サービス向上のため、全国で多数の結婚式場が加盟しているブライダル研究会にウェディングプランナーを派遣するなどして、秋田のみならず全国に目を向けることができるよう、社員に「自ら学べる場」を積極的に提供し人材育成に取り組んでいる。

また、お客様のニーズの多様化に合わせて業務も多様化する中で、よりよいサービスを提供していくために仕事の効率化を図ろうと、社内体制の見直しや、新しいシステムの導入の推進など、時代に合わせた組織の在り方を常に模索し続けている。

「我々の強みは、サービス業であること。常にお客様が求めるサービスは何かを考えると同時に、サービスの質を磨いていきたい」。人口減少や高齢化が進む中、お客様にイヤタカを選んでいただくために何をすべきか。ウェディング、飲食など各部門が、究極のサービスを追求することで「生き残りをかけていきたい」と話す。

秋田の未来を見据えた挑戦

ここ数年、結婚式を挙げないカップルの割合が増えている。ウェディング業界にとっては頭の痛い問題だ。「ニーズの変化だと捉えている。結婚式を挙げないカップルにはどんなニーズがあるのか。それに我々はどうか対応できるのか。そこに新たなビジネスチャンスがあると思う」。加えて、結婚式のすすめにも力を入れていきたいという。「結納や結婚式は人生の大切な儀式であり、日本の文化でもある。文化を未来に受け継ぐ担い手としても頑張りたい」

時代の変化を受けて、イヤタカは、積極的に次の一手を打っている。その取り組みの1つが、社内に関設した「イ

ヤタカ結婚相談所アンサンブル」だ。全国5万人以上が登録するネットワークシステムを利用し、お客様の思いや理想、悩みを聞いてパートナー探しをサポートするのは、これまで数々のカップルに接してきたウェディングプランナー。婚礼事業に携わって40年を超えるイヤタカならではの経験・実績を活かしたサポート体制を整えている。

もう1つの取り組みが、「自分でつくる結婚式『婚つく』」の提案だ。「4カ月以内に結婚式を挙げたい」というカップル限定で、「写真だけの結婚式がしたい」「急いで結婚式を挙げたい」「披露宴はしないで挙式だけしたい」などといった自分たちのスタイルに合わせて結婚式の形をカスタマイズできる。これは、結婚式を挙げない、いわゆる「ナシ婚」カップルを対象にした商品で、お得な価格帯と、費用がひと目で分かる安心感、ウェブサイト上で簡単見積ができる手軽さなど、時代のニーズを意識した取り組みとなっている。

さらに注目すべきは、介護分野への事業拡大だ。「超高齢化時代」に先駆け、27年8月、秋田市卸町にリハビリ型デイサービス「リハプライド・卸町」をオープン。リハビリトレーニングによって、寝たきりや高齢者の引きこもり、うつ病や認知症の予防、運動機能の回復を助けている。

ウェディングの枠にとどまらず、時代のニーズに応え続けるイヤタカグループ。各事業を充実させ、さらなる発展を目指している。



- A イヤタカの社員と共に。社員とはいつも気軽に言葉を交わし合う。
- B ガーデンウェディングで人気の「ウェディングヒルズ御所野」。
- C 大きなステンドグラスが美しく輝く聖セリシア協会。左奥に見えるのは、ヨーロッパの邸宅風のゲストハウス「ヴァレリアーノ」。
- D 彌高神社の直会殿を改装して造ったフレンチレストラン「千秋亭」。
- E 福祉・介護分野にも参入。シニアフィットネスを取り入れたリハビリ型デイサービス「リハプライド・卸町」を運営。



株式会社イヤタカ

〒010-0001 秋田市中通6-1-13
TEL.018-835-1187 FAX.018-835-1109
<http://www.iyataka.co.jp>

- 創業/昭和49年
- 資本金/2,000万円
- 従業員数/350人
- 事業内容/ウェディング、パーティー・宴会、ケータリング・仕出し、レストラン、貸衣裳、カルチャースクール、リハビリ型デイサービス等

センター活用事例 [case1]

あきたビジネスプランコンテスト <http://www.bizcon.vt-akita.com>

総括 / 公益財団法人 あきた企業活性化センター
協賛 / 秋田県信用保証協会
後援 / 秋田県、秋田市、秋田県商工会議所連合会、秋田県商工会連合会、秋田県中小企業団体中央会、秋田銀行、北都銀行、秋田県信用組合、秋田信用金庫、羽後信用金庫、日本政策金融公庫 秋田支店(順不同)

グランプリとオーディエンス賞を受賞した鈴木幸絵さん。「無塩の梅」の可能性をアピールした。



センター活用事例 [case2]

～食堂 Café～ YAKUZEN

横手市横手町四ノ口125-1
Tel. 080-6035-3791
[営業時間] 11:00～19:00(ラストオーダー18:30)
日曜・火曜 11:00～14:30(ランチタイムのみ営業)

事業計画作成時を振り返り、「アドバイスを受けてビジョンが明確になった」と吉田さん。



企業&人脈づくりを応援！今年も「ビジコン」開催



あきたビジネスプランコンテスト2016

10月28日、秋田ビューホテルにて「あきたビジネスプランコンテスト2016」の最終審査会を開催。

8人がプレゼンを披露

2013年に始まり、4回目となった今年は「あきた起業家交流フェスタ2016」と題して、「起業家交流会」も同時開催。

コンテストでは過去最高の22件の応募の中から、書類や面接審査を通過した8人が最終審査会に駒を進め、熱の入ったプレゼンテーションを披露した。

厳選な審査の結果、グランプリに輝いたのは「世界初！無塩の梅(ume)加工品による事業展開」を発表した鈴木幸絵さん(秋田市)で、聴衆の投票による「オーディエンス賞」とのダブル受賞となった。準グランプリには、村上篤さん(秋田市)が選ばれた。

受賞者のプラン紹介

【グランプリ・オーディエンス賞】鈴木幸絵さん(秋田市)

「世界初！無塩の梅(ume)加工品による事業展開」塩分0%の梅エキスと梅肉の商品開発に取り組み、製品化に成功。特許を取得しました。原料は県内産を含めた国産梅のみ。塩、砂糖、添加物を一切使っていないので、梅そのものの風味が楽しめます。また、食塩の過剰摂取を気にすることなく、疲労回復効果のあるクエン酸など梅の栄養を摂取することができます。

製造は県内業者に委託し、業務用の販売を進めたいと考えています。さらに、県内の生産農家に呼びかけ、梅の生産拡大にも取り組みたいと思っています。

受賞結果

グランプリ・オーディエンス賞/鈴木 幸絵 (秋田市)

世界初！無塩の梅(ume)加工品による事業展開

準グランプリ/村上 篤 (秋田市)

「ネット通販に踏み出せない！」を解決！動画を活用したビデオコマースサイトで世界中に秋田の良品を発信&販売

グッドプラン賞・特別賞/藤井 康広 (秋田市)

アーティストのパワーを1つに。秋田の魅力ステーションプロジェクト

グッドプラン賞/後藤 明代 (湯沢市)

「健康美のプラットフォーム」～美姿勢トレーニング事業の展開～

グッドプラン賞/鈴木 隆弘 (羽後町)

田舎だからこそ出来る事がある！ビールで羽後町から！

グッドプラン賞/工藤 愛 (秋田市)

あきたの介護情報ポータルサイトの開設～あきたの介護に玄関口を!!～

グッドプラン賞/高橋 宏明 (湯沢市)

あきたこまちの米粉とイタリア産セモリナ粉をブレンド！新しい本格手打ち生パスタの製造

グッドプラン賞/熊谷 仁 (由利本荘市)

災害時に役立つ非常用空気電池パック内蔵防災告知放送ラジオの開発と製造販売

「薬膳」とは何か、魅力やおいしさを広める



～食堂 Café～ YAKUZEN

昨年度の「ビジネスプランコンテスト」で入賞した吉田七重さん。

店舗を訪ね、その後を追った。

体に優しいメニューを提供

昨年12月18日に、秋田市にぎわい交流館「AU」で行われた「あきたビジネスプランコンテスト2015」の最終審査会で優秀賞を受賞した吉田七重さん(横手市)。「自然食材を使った料理と薬膳料理をメインとした健康食堂カフェの開業」と題してプランを発表した。

健康食堂カフェ「～食堂 Café～ YAKUZEN」は、昨年10月にオープン。地元の旬の野菜を中心に、酵素玄米、豆、雑穀類を使って食材のおいしさや栄養を生かした薬膳料理や、中国茶のカフェメニューなど体に優しい食を提供している。

女性客に人気のYAKUZENだが、最近は健康に注意を払う男性客も増えている。週末に県外から足を運ぶお客様など、着実にリピーターを獲得している。

2年かけて計画を練り上げる

介護福祉士、ナチュラルフードコーディネーター、薬膳コーディネーター、介護食アドバイザー、福祉住環境コーディネーターなど、様々な資格を持つ吉田さん。YAKUZENを始める前は、介護福祉士として施設に勤務していた。訪問介護などで高齢者と接する中で、食事が健康の維持にいかにか大切であるかを実感。「中国に『医食同源』という言葉があるように、日頃からバランスの良い食事を摂ることで病気を予防できる。そこから薬膳の考え方、食事法に辿り着いた。福祉や介護の知識・経験、資格を生かしながら、薬膳を通じて健康になれる食を提案したいと考えた」。事業計画は、よろず支援拠点のアドバイスを受けるなどして2年かけて練り上げた。

もっと魅力を広めたい

薬膳料理とは何か。吉田さんは食事を提供しながら啓蒙活動にも取り組んでいる。「薬膳とは、旬の食材を使ったバランスの良い食事で体調を整え、免疫力や自然治癒力を高める食事法のこと。『薬のような味?』『漢方のような特別な食材を使うの?』といった誤解が多い。店に来て薬膳とは何かを知って『身近な食材で作れるものなんだ』『これなら普段の食事に取り入れられる』と驚く人は多い」

「薬膳」の魅力をもっと広めようと、次の取り組みも考えている。「お客様の体調を聞き、食事のアドバイスをしながら、その人に合った食事を提供するもの。食で元気になってもらいたい」

現在は女性起業家達とコラボしてYAKUZENを会場に講座を開き、新たなファンを増やしている。



A 1人10分間の持ち時間でプレゼンを披露。中には、身体を使ったパフォーマンスも。

B それぞれのプレゼンテーションの後は、審査委員による5分間の質疑応答が行われた。

事業概要 あきたビジネスプランコンテスト

県内での創業・起業意識の醸成と、独自性のある経営計画を持つ起業家を発掘するため、年に1回開催するコンテストです。

● Facebook「あきたビジネスプランコンテスト」でも情報を発信しています。

お問い合わせ あきた企業活性化センター 総務相談グループ
TEL 018-860-5610



A 店の周囲には平鹿総合病院や医院、薬局などが点在。それら施設の往き帰りに立ち寄りお客様も多い。

B 食材の持つ甘さを活かして体に優しいスイーツの提供も。スイーツはテイクアウトも可能。

事業概要 あきたビジネスプランコンテスト

県内での創業・起業意識の醸成と、独自性のある経営計画を持つ起業家を発掘するため、年に1回開催するコンテストです。

● Facebook「あきたビジネスプランコンテスト」でも情報を発信しています。

お問い合わせ あきた企業活性化センター 総務相談グループ
TEL 018-860-5610

各方面の専門家による
ビジネスに役立つエッセンス

写真でもっと伝える、 もっとよくなる

『写真のチカラ』で

素晴らしい価値が伝わる



伝える事も商品の内 セールスポイントの見える化

強力な伝達手段としての“写真”

モノや情報が溢れた現代、私たちは何を基準に商品やサービスを購入しているのでしょうか。

「高品質」・「高機能」・「便利」・「おいしい」などのセールスポイントでしょうか？それらは一体どんな形で伝えられているのでしょうか？

「言葉」のみでの伝達は、受け取る側に「想像」という、作業を強いる事になります。情報に溢れた現代社会では、これは親切的な伝え方とは言えません。

極端な言い方をすると「後は想像して下さい！」という態度を取っているとも受け取られかねません。

では適切な伝え方とは何でしょうか？それはセールスポイントの「見える化」です。

例えば、食品分野などにおいて、類似品の多い中でも、支持される商品があります。

選ばれる理由は「おいしそう！」「食べ方、使い方」「ブランドの世界観」「生産背景や物語」といったセールスポイントが、しっかりと「見える化」され、お客様に伝わっているからです。

前号では、商品やサービスの情報伝達に「写真」があるか・無いか、また、たとえ写真があっても、写真から受けた「印象」が、文字や言葉以上に、商品やサービスを提供する企業への印象にまで影響するという事を、事例を使って説明しました。

今回は、ビジネスに写真を活用する際に、どのような心づもりで、事前に何を決めておくか、どう活用するかといったことについて説明したいと思います。

商品のセールスポイントが伝わる写真を撮影する為には、丁寧な伝え方・見せ方「撮影コンセプト」の明確化が重要です。

例えば、私が撮影時に、必ず確認するのは、

「この商品のターゲットは？」

「写真で何を伝えたいですか？」

「どんな媒体に活用しますか？」

などです。

写真は商品の魅力、セールスポイントをお客様に伝える為の「道具」です。

カメラマンのセンスに任せるのではなく、商品開発の意図や商品の特徴など、目的を共有し撮影することが、「伝わる写真」の第一歩となるのです。

A



B



PR戦略の軸となる“伝わる写真”

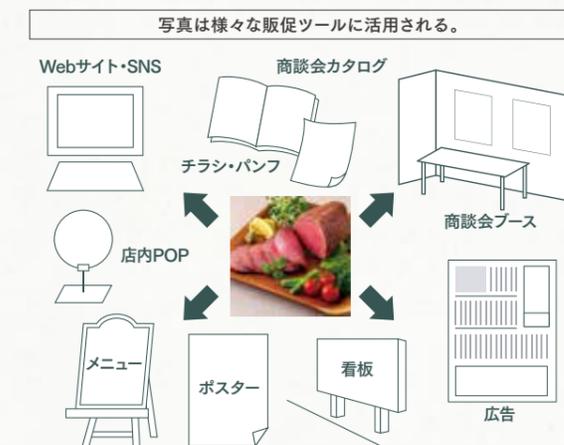
一つの写真が多くの伝達ツールに

写真Aは“秋田牛ローストビーフ”です。どのようなパッケージ仕様かは分かりますが、セールスポイントの核である「美味しい！」という点や購買行動を後押しする「食べ方」や「ブランドの世界観」などはこの写真だけでは伝わってきません。

次に食べるシーンを想定したイメージ写真Bをご覧ください。商品写真だけでなく確実に「美味しさ」を感じさせる事が出来ています。

例えば、仕様が分かる写真A、美味しさを伝える写真Bを組み合わせるだけで、Cの様に仕様と魅力が同時に伝わる販促ツールを制作することが出来ます。デジタルデータとして写真が扱われる今日、写真の持つ力、その応用性の高さは「伝える」という行為の中で重要度を増しています。

また、撮影コンセプトを明確にした“伝わる写真”を意識することで、PRツールに統一感が生まれ、商品イメージのブレを抑える事が出来、ブランドとしての認知度も高くなっていきます。

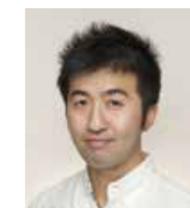


価値が“伝わる写真”

秋田の素晴らしい価値は足元にある

秋田県には、国内外に誇るべき商品やサービス、技術、観光、農林産業などがたくさんあります。それらを活かす為にはその「価値」を丁寧に伝え、情報発信していくことが、これまで以上に必要になってくると私は考えています。

その情報発信に欠かせないツールのひとつが、『写真のチカラ』です。みなさんの会社案内や商品パンフレット、ホームページに、撮影コンセプトを明確にした“伝わる写真”を活用し、販路拡大や売上増加のビジネスチャンスを生み出しましょう。“伝わる写真”は、“未来を切り拓く道具”です。



R-room 鈴木電典写真室

www.r-room-photo.com

代表・フォトグラファー

鈴木 電典

Ryusuke Suzuki

秋田カメラマン R-room 検索

【略歴】

秋田県生まれ。秋田公立美術工芸短期大学産業デザイン学科卒業。お客様との事前ヒアリングを大切にしながら課題を引き出し、撮影内容や写真の活用方法などを共に考え、提案する写真を得意とする。企業や商品・サービスの「価値が伝わる写真」と「心を動かす写真のチカラ」を信じて日々撮影中。

【撮影事例】

2016NAMAHAGEダリア 広告ポスター
秋田県広報誌「あきたびじょん」表紙撮影
県内外各種媒体、飲食店メニュー、会社案内など

あきた企業活性化センターからのお知らせ

平成28年度 第2回「あきた企業応援ファンド事業」公募結果について

県内の地域資源を活用した新商品開発や販路拡大、大学・公設試験研究機関及び他の企業との共同研究による新商品・高度技術開発や高付加価値化などの取組を助成をする「あきた企業応援ファンド事業」を行っております。

公募状況 8件

公募期間
平成28年8月17日(水)～平成28年9月14日(水)

採択状況 事業採択数 6件

交付決定総額は29,074千円です。

中小企業者等支援事業(地域資源型)

No.	申請者名	市町村名	事業のテーマ
1	(株)アクトラス	横手市	ベットサイド機器の「IoT化ユニット」並びにナースコールに連携する「無線通信コア装置」の開発
2	AdeBカンパニー(株)	秋田市	スリミングジェル(痩身効果のある身体用ジェルクリーム)の開発・PR
3	(株)八柳	仙北市	「AKITA FOREST HARVEST」シリーズの未製品化商品の改良・製品化

中小企業者等支援事業(経営革新型)

No.	申請者名	市町村名	事業のテーマ
4	(株)フォラックス教育	湯沢市	秋田の『伝統工芸』との融合、裕福層向けLED額縁の製造・販売を事業化する

共同研究助成事業(高度技術産業集積地域型)

No.	申請者名	市町村名	事業のテーマ
5	(株)ホクシンエレクトロニクス	秋田市	超音波式スパイロメーターの感染防止マウスピースの高度化開発

共同研究助成事業(一般地域型)

No.	申請者名	市町村名	事業のテーマ
6	(株)アスター	横手市	省エネルギーの達成と安全を確立する漁船搭載型作業用LED照明装置の開発

あきた企業活性化センターからのお知らせ

平成28年度 第2回「あきた農商工応援ファンド事業」公募結果について

県内の中小企業者等と農林漁業者が連携し、互いに有するノウハウや技術等を利用して取り組む新商品開発や販路開拓などに対して助成を行う「あきた農商工応援ファンド事業」を行っております。

公募状況 5件

公募期間
平成28年7月27日(水)～平成28年9月7日(水)

採択状況 事業採択数 3件

交付決定総額は21,928千円です。

農商工連携支援事業

No.	申請者名	申請代表者	市町村名	事業のテーマ
1	株式会社アスター	○	横手市	秋田杉等の林業資源を活用した低コストの床暖システムの新商品開発と販路開拓
	横手市森林組合		横手市	
2	ENEX株式会社	○	美郷町	農業ハウスにおける「<栽培作物別>機能も価格もスマートなコントローラー」の開発
	子吉 金悦		横手市	
3	株式会社サノ	○	秋田市	秋田県産「ネギ」の機能性食品素材としての商品開発と有効活用
	農事組合法人平沢ファーム		秋田市	

平成28年度 第3回の募集のお知らせ

あきた農商工応援ファンド

募集期間
平成28年10月26日(水)
▶平成28年12月7日(水)

助成率・助成限度額
● 県内の中小企業者等と農林漁業者の連携体 4/5 1,000万円
● 連携体を支援する応援団体 10/10 500万円

あきた企業応援ファンド

募集期間
平成28年12月7日(水)
▶平成29年1月11日(水)

助成率・助成限度額
● 県内の中小企業者等 1/2～3/4 300～1,000万円
● 中小企業支援機関 10/10 500万円

※あらかじめ、事業の内容についてご相談ください。



商品開発事例/有限会社ビュー(大仙市)の猫の肉球付きマウス「プニティマウス」

秋田市産業振興部からのお知らせ

平成28年度 秋田市創業支援補助金

創業をお考えのかたへ
一歩踏み出す勇気応援します！

秋田市内で法人を設立して新たな事業を開始しようとするかたに対して費用の一部を補助します。(創業5年以内の個人事業主のかたの事業拡大に伴う法人成りも対象となります。)

また、補助対象者が女性の場合は、補助率を引き上げし、女性の活躍を応援します。

補助金交付対象者

本市において、法人を設立して新たな事業を開始しようとするかたのうち、次の全ての要件に該当するかた

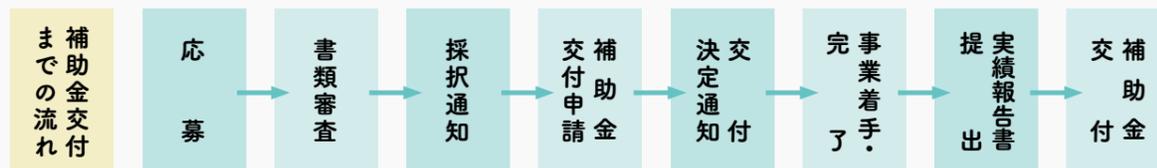
- 優れた事業計画で本市産業の振興が期待できること。
- 事業の実現性および成長性が認められること。
- 創業が確実であること。
- 創業の模範となる事業であること。
- 市内の金融機関から資金の調達が見込める事業であること。
 - 市税に滞納がないこと。
 - 金融機関等からの融資等に係る債務の不履行がないこと。
 - 個人事業主が法人となる場合(法人成り)は、事業の拡大を伴う場合であって、創業5年未満であること。
 - 秋田市暴力団排除条例第2条に規定する暴力団、暴力団員又はこれらの者と密接な関係を有する者に該当しないこと。
 - 国・県から補助金の交付を受けていないこと。

対象事業

創業を予定している事業が、農林漁業、医療業(病院等)、金融保険業、風俗営業などに該当しない業種を対象とする

提出書類

- 創業計画書
- 住民票および納税証明書(直近2年分の市民税、固定資産税)
- 事業拠点を示した地図、賃貸借および取得に係る見積書、設備改修、機械器具購入ならびに広告宣伝に要する経費の見積書等



相談・応募
募集中
平成29年1月20日
まで

秋田市で創業する場合
最大 **375万円** の補助

[例: Aターンした女性が法人を新たに設立して起業]



補助対象経費等

次に掲げるものを補助対象とし、補助率等は以下のとおり

- 創業支援補助金
補助率50% / 限度額50万円
- 女性創業支援補助金
補助率75% / 限度額75万円

補助対象 / 事業拠点費・設備費・機械器具費・広告宣伝費・申請手数料等

秋田市ではこのほか、創業支援として以下の制度等を実施。詳細はお問い合わせください。

Aターン創業支援補助金

県外から秋田市に転入して3年以内のかた又はこれから転入して起業しようとするかたに対して、事業拠点費や生活拠点費、転居費用の一部を補助します。

事業拠点または生活拠点を取得する場合
補助率 50% / 限度額300万円

事業拠点または生活拠点を賃貸する場合
補助率50% / 限度額100万円

チャレンジオフィスあきた

秋田市創業支援室「チャレンジオフィスあきた」は、完全個室型の貸しスペースで、使用料金は月1万円～5万円程度です。

■所在地 / 秋田市土崎港西三丁目9-15

お問い合わせ・お申し込み先

秋田市産業振興部商工貿易振興課 創業支援担当
秋田市山王一丁目1番1号

TEL 018-888-5729 FAX 018-888-5727
E-Mail ro-inpr@city.akita.akita.jp

新輸出大国コンソーシアム

JETRO
日本貿易振興機構(ジェトロ)

海外展開をご検討中なら、
どんなことでもご相談ください。

- 海外展開を決めたが何から始めるべきかわからない。
- 輸出実務、契約締結などの手続きがわからない。
- 何を相談していいかもわからない。

利用
無料

ジェトロ秋田

秋田市山王 2-1-40 田口ビル 1階

TEL:018-865-8062 / E-mail:AKI@jetro.go.jp

www.jetro.go.jp/consortium/

「新輸出大国コンソーシアム」は、政府系機関、商工会議所、地域の金融機関などの支援機関が連携し、海外経験豊富な専門家の知見も活用しながら中堅・中小企業に寄り添って海外展開を支援する体制です。ジェトロが事務局を務めています。

あきた企業活性化センターからのお知らせ

平成28年度『秋田広域商談会』を開催

11月17日(木)、秋田ビューホテル(秋田市)に於いて、今年度の「秋田広域商談会」を開催しました。

この商談会は、県内ものづくり企業の受注量拡大を図るため、より多くの取引機会の場を提供することを目的としています。数えて36回目となる今回は、県内外から発注企業73社、受注企業148社と過去最高の参加社数となり、各ブースでは例年にも増した活発で熱の入った商談・情報交換がなされました。

当センターでは、商談会後のフォローに努めるとともに、今後も県内企業の販路拡大に向けた支援を行ってまいります。



お問い合わせ

経営支援グループ 販路拡大担当・ものづくり支援担当

TEL 018-860-5623

FAX 018-860-5612

海外貿易に関心のある企業の皆さま

海外進出を北都銀行に 相談しませんか？

アジア地域の販路拡大
など海外展開に関する
ご相談は北都銀行に
お任せください！！

北都銀行



②

アジア地域への販路拡大、
海外進出など海外展開を
検討してみたいけど
海外市場の動向、
信頼できるパートナー、
規制や商慣習の違い…。
わからないことだらけ
なんだよなあ。
どこに相談したら
いいのだろうか？

お客様



①

③

海外セミナー

L/C
決済報告など

現地市場視察

商談会の
開催

資金ニーズ
への対応

などなど！



じゃあ、
お願いしますよ！

例えば…

製造業A社



海外からの原材料の輸入について
相談したところ、現地企業とつながり
以前より低コストでの原材料の調達に
成功しました！

製造業B社



海外での工場取得を相談中。
北都銀行の海外展開に関する
ネットワークを活用しています。

海外展開に関するご相談・ご要望などありましたら
なんでもお気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ先



地方創生部
海外成長産業推進室
☎018-837-1701



LINE@
@hokutobk

登録
してね！



(H28.11.リテ承認)